

編集後記

暖冬異変、東京では本格的な冬將軍も来ずじまい。駆足で冬は去り、3月中旬を過ぎた頃には早くも花見を終え、例年の花見の頃には葉桜見物。初経の出回る昨今では若葉もすっかり成長し、本格的な夏を思わせます。この異常気象の中での本特集号はまさに素敵なタイミングだったと思います。思い起せばこのところ、随分と長い間「異常気象、異常気象」と騒がれているような気がします。昨年の夏も冷夏で、本当にあつかったのはビールのドライ戦争位のものでした。「異常気象と新製品の売れゆきには深い相関があるのではないか?」「例年通りの暑さならこれ程ビールのシェアが変動することはなかったのでは?」などと考えながら、新製品ビールでのどを潤したものでした。今やその余波はビールの多品目化を呼びビール党を喜ばせています。これでビール党の舌も肥えるし、各ビール会社も新しい味に向けて力を注ぎ品質が向上する、まことに結構なことです。これで今年の夏に猛暑が襲ったりすると、去年の冷夏に始まった熱い戦いに油を注ぐでしょう。先日耳にした天気の長期予報は猛暑到来を予測していました。奥山先生のお話の中でも暑さに影響を受けるものとしてビールは主役で、ビール戦国時代は目の前です。そういえばテレビのコマーシャルフィルムもビールのものばかりが目につきます。異常気象からビールの話に脱線してしまいましたが、異常気象は新製品を呼ぶ、という命題は面白そうです。唯是先生、友定先生のお話の中でも出てきましたように、異常気象の影響は短期間では消えないようです。因果はめぐり想像もつかないところに大きなインパクトを与えるようです。昨年の冷夏が今の自民党混迷を招いた、なんてことはないでしょうが……。

気象の影響がまずでるのはここに生きている生物、特に移動することのできない植物でしょう。気象の影響にプラスしてこの世の中で最もわがままな人間の影響を直

日本オペレーションズ・リサーチ誌編集委員会

委員長	山田 善靖	東京理科大学
副委員長	日下 泰夫	東京都立商科短期大学
委員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	稲場日出男	工学院大学
	片山 隆仁	防衛庁
	川野幸三郎	日本ユニカー㈱
	城川 俊一	関東学園大学
	木嶋 恭一	東京工業大学
	新村 秀一	住商コンピュータサービス㈱
	丹羽 清	㈱日立製作所
	平林 隆一	東京理科大学
	町原 文明	日本電信電話㈱
	松本 康男	㈱三和総合研究所
	矢部 博	東京理科大学

接受ける農産物、それに畜産物はまさにダブルパンチを受けます。人間の数限りのない欲望は気象が及ぼす因果関係をますます複雑にします。藤原先生の鶏卵価格、牛乳消費量への影響の解説は興味深く拝見させていただきました。真夏の暑い日、冷房で快適温度を保ち、甲子園での高校野球を涼みながら見物するというわがままが電力消費のピークを生む、ということは容易に理解できます。気象変化の不確実性がいかに電力設備の設計を難しくするかという小野先生のお話は従来より通信需要の不確実性に泣かされている小生には大変切実な問題として迫ってきました。それぞれの分野で面白い話を書いていただいた五人の先生方に感謝をいたします。

さて次号は「ORの切り口」と題した大特集です。ORの各手法が実際問題解決のためにいかに大きな役割を果たしているかが明らかにされるでしょう。実学としてのORの面目躍如たることを信じてやみません。ご期待ください。(町原)

(今月号に限り「次号予告」は256ページに掲載)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成元年6月号 第34巻 第6号 通巻342号

代表者 森村 英典

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-815-3351(代) FAX 03-815-3352 〒113

編集人 山田 善靖

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

• 本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円, 郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

• 本誌への広告お申し込みは明報社(546-1337)、日経弘報社(563-2241)へ